



北海道・三陸沖後発地震注意情報発表に関する市民アンケート調査概要

1 調査目的

令和7年12月8日(月)に発生した青森県東方沖地震では、地震発生後の12月9日(火)に「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表されたことから、市民に対してアンケート調査を実施することで、防災意識や行動を把握し、課題等を客観的に分析して、今後の防災施策の参考とするもの。

2 期間:令和7年12月26日(金)から令和8年1月31日(土)まで

3 対象者:いわき市民

4 調査方法:Webアンケート

5 広報媒体:市SNS(12/26～)、世帯回覧(1/1付け、13,675世帯)

6 主な調査項目

- ・日頃からの災害への備え
- ・後発地震注意情報発表時の情報収集方法
- ・後発地震注意情報発表後の災害への備え

7 回答者数:2,604名





アンケート調査結果

【アンケート結果に基づく傾向】

1 情報認知の傾向

「今回知った」という割合は年代に関係なくほぼ同じ。

➢ 災害リスクの高い地区の住民ほど、後発地震注意情報を知っている割合が高い。

2 情報入手媒体の傾向

約7割がテレビや行政の発信で情報を把握。

年齢が下がるほどSNS等のデジタル媒体を活用し、年齢が上がるほど新聞で情報を得る傾向がある。

➢ 各世代に伝わる情報の在り方の実践。

3 平時からの災害への備えの傾向

災害リスクが低い地区の住民や30歳代以下の人ほど備えをしていない。

➢ 特に災害リスクの低い、又は30歳代以下への防災意識の高揚を図る。

4 情報発信後の備えの傾向

後発地震注意情報後の備えの内容は、水・食料の追加備蓄やガソリン給油が多い。

➢ 東日本大震災の教訓を活かした活動が見られた。

5 備えをしなかった理由

7割以上が正常性バイアスにより行動を取らず。

災害リスクが低い地区の住民ほど正常性バイアスが強い傾向。

➢ 行動を妨げる心理「正常性バイアス」の啓発活動が必要。

【今後の取組】

いわき市 × 東北大災害研※

既存事業の強化！

防災教育

- ・後発地震注意情報の周知
- ・過去災害の風化防止
- ・平時の備えを周知など

総合防災訓練

- ・訓練内容の充実強化
- ・若年層の参加促進など

情報発信

- ・SNSでの発信強化など

実施内容は、定期的に効果を検証し、改善を図り、ブラッシュアップする。

※ 正式名称「国立大学法人東北大学災害科学国際研究所」。
今年度から学術指導していただいている。

災害対応のじぶんごと化
(防災意識の高揚)

防災知識の向上

「逃げ遅れゼロ」「災害死ゼロ」



回答者の基本情報について

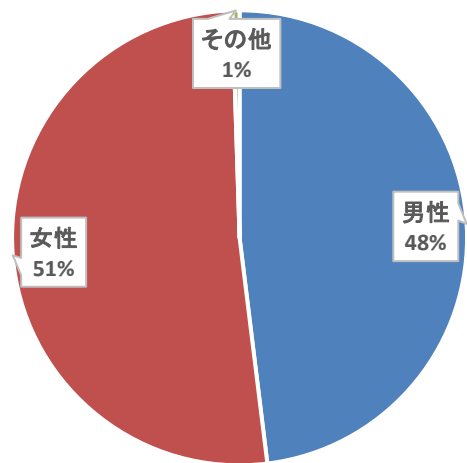
(問1～問4)



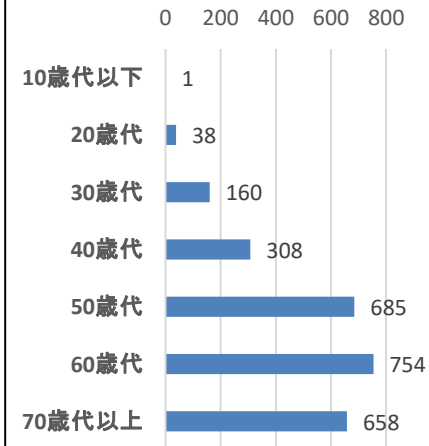


回答者の基本情報(n=2,604)

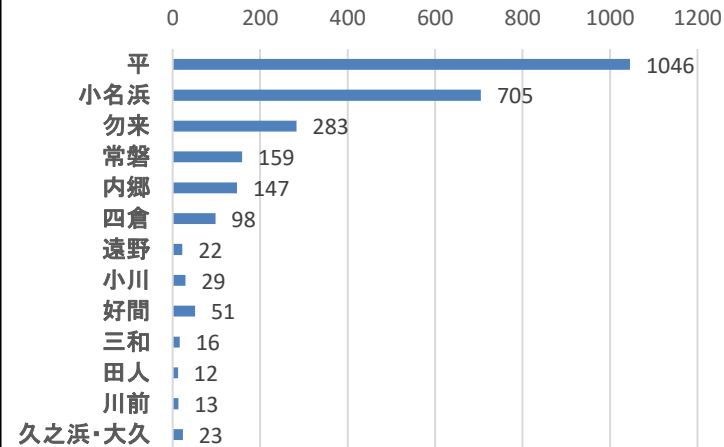
問1 男女等内訳



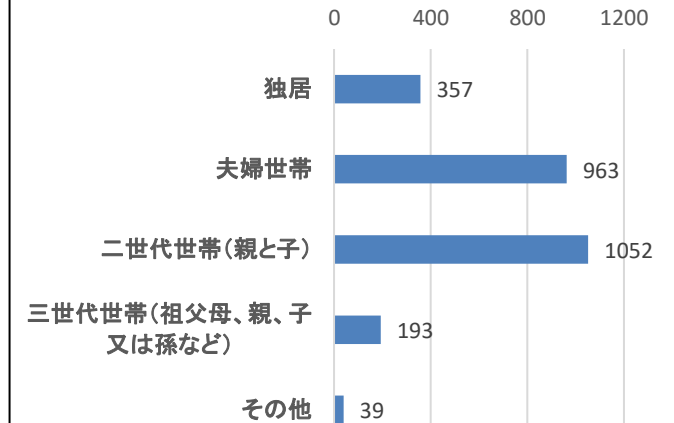
問2 年代内訳



問3 居住地内訳



問4 世帯状況内訳





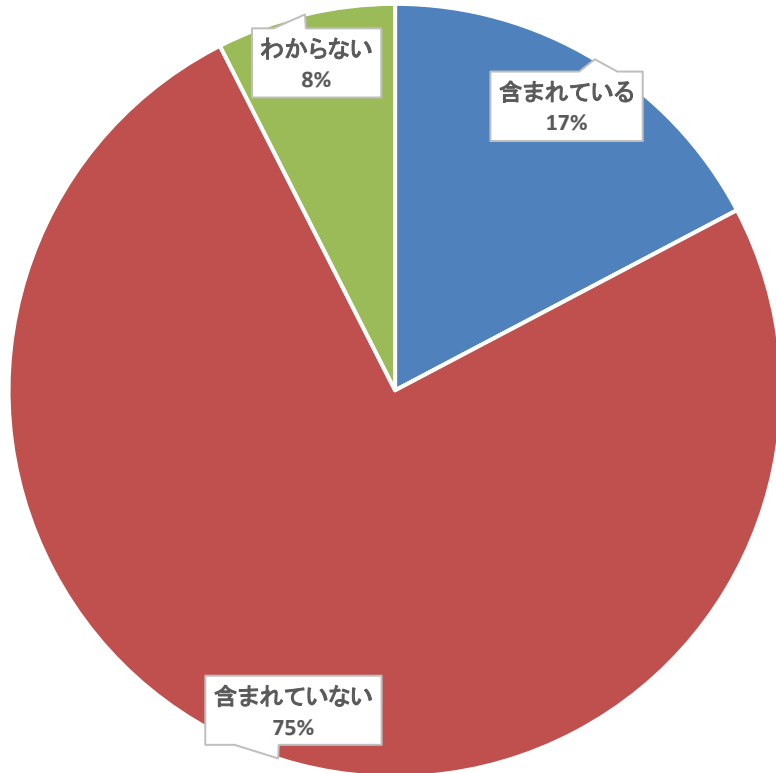
津波浸水想定区域、後発地震注意情報の認知度 及び 情報収集方法について

(問5～問7)





問5 自宅が津波浸水想定区域に含まれていますか



(n=2,604)

【解説】

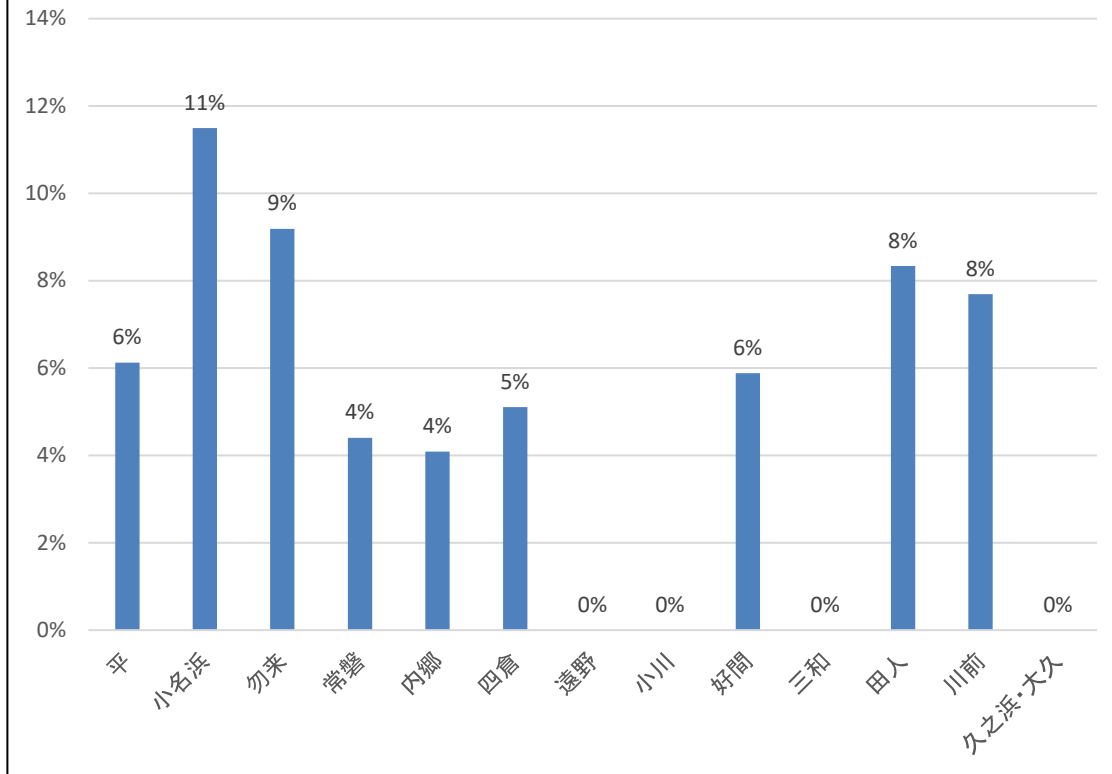
「自宅が津波浸水想定区域に含まれていますか」との問いに対して、75%の人が「含まれていない」、17%の人が「含まれている」、8%の人が「わからない」と回答があった。



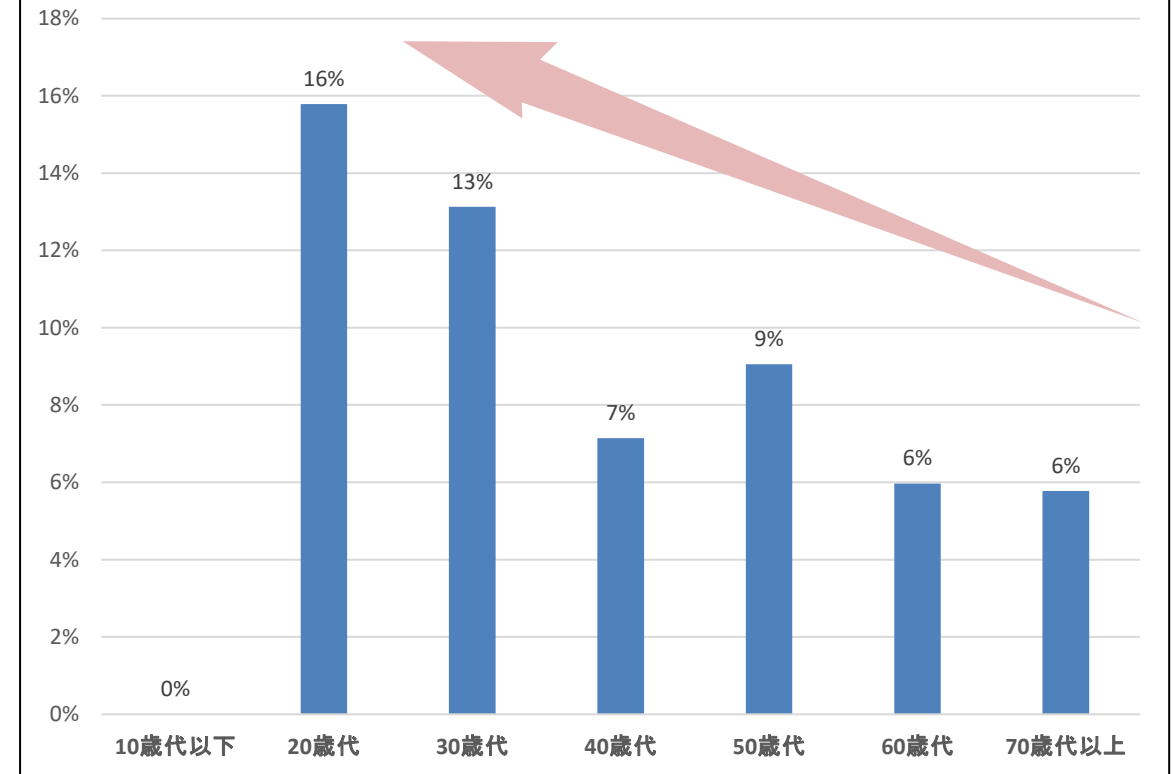


問5ー1 自宅が津波浸水想定区域に含まれていますか

各地区の回答者のうち、「わからない」と回答した人の地区別内訳



各世代の回答者のうち、「わからない」と回答した人の年齢別内訳

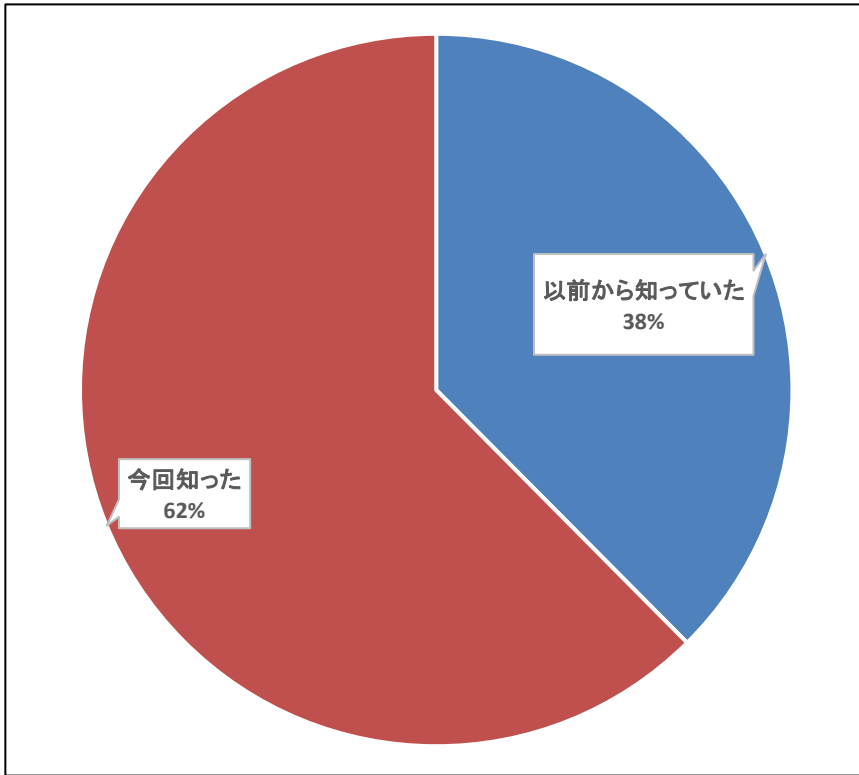


(n=194)





問6ー1 北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表される前からこの情報を知っていましたか



(n=2,604)

【解説】

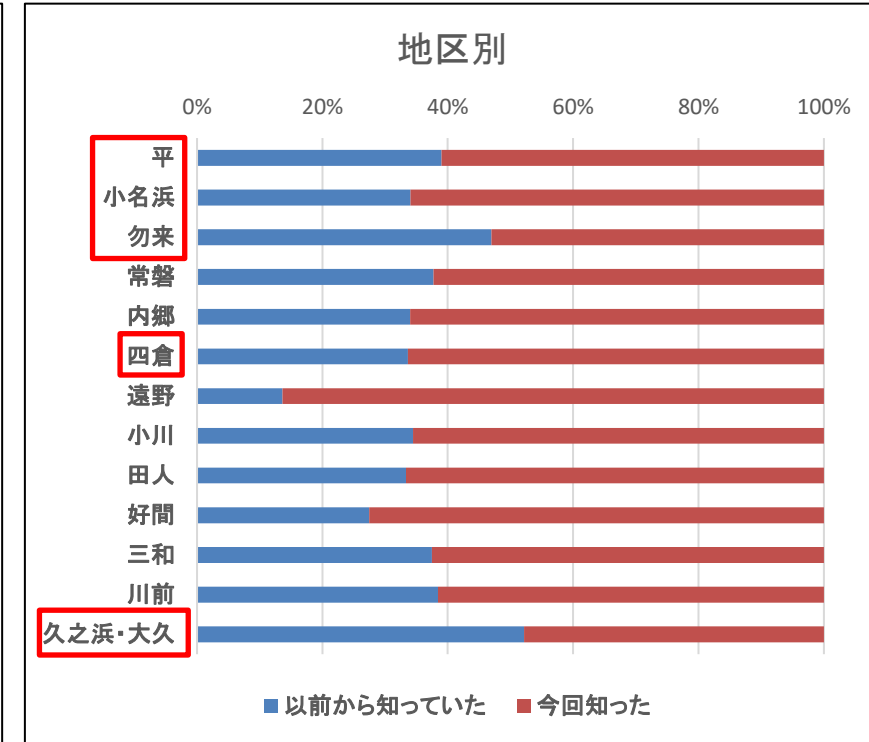
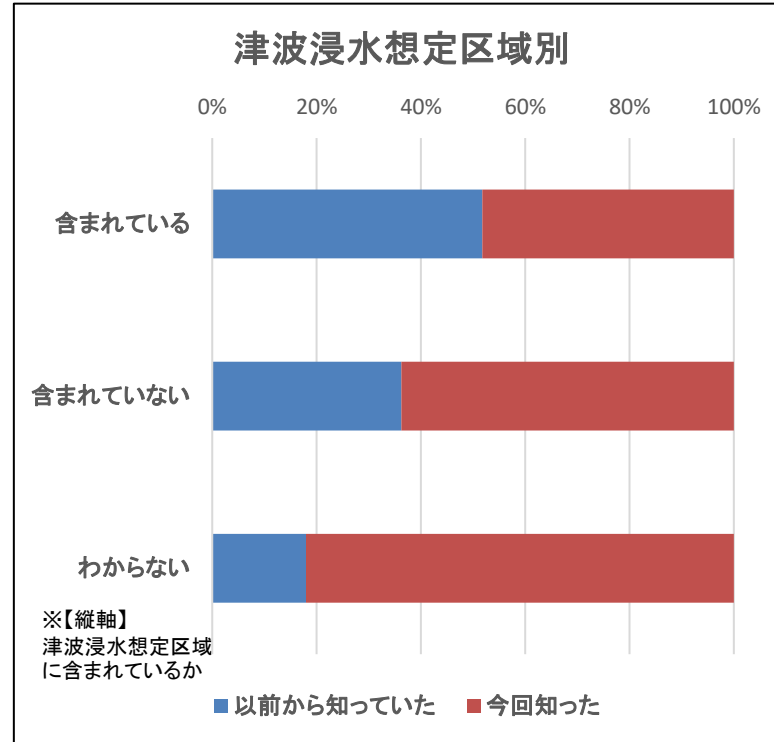
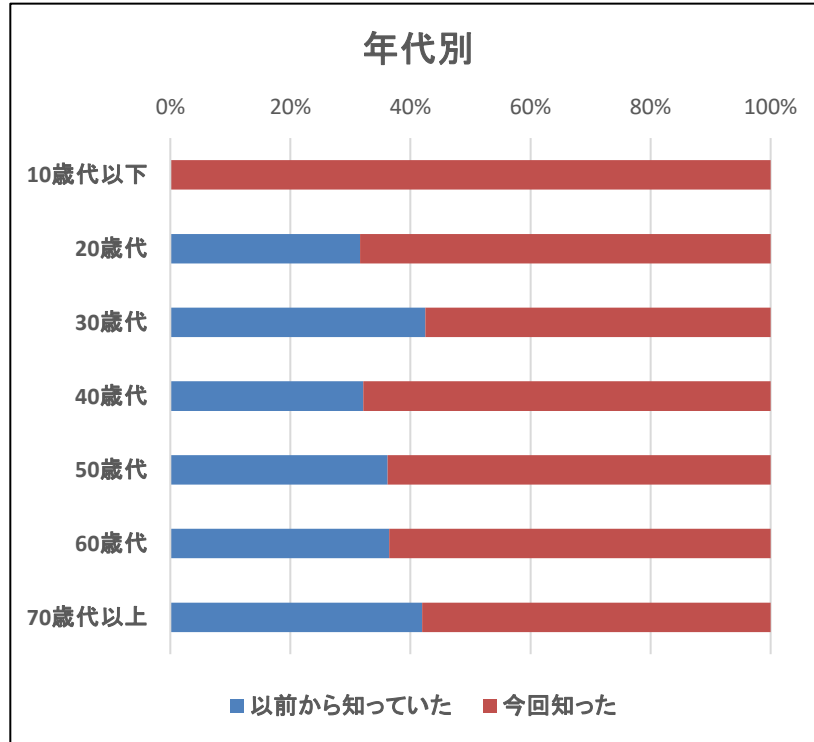
「北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表される前からこの情報を知っていましたか」との問いに対して、62%の人が「今回知った」、38%の人は「以前から知っていた」と回答があった。





問6ー2 【クロス集計】

北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表される前からこの情報を知っていましたか (n=2,604)



【解説】

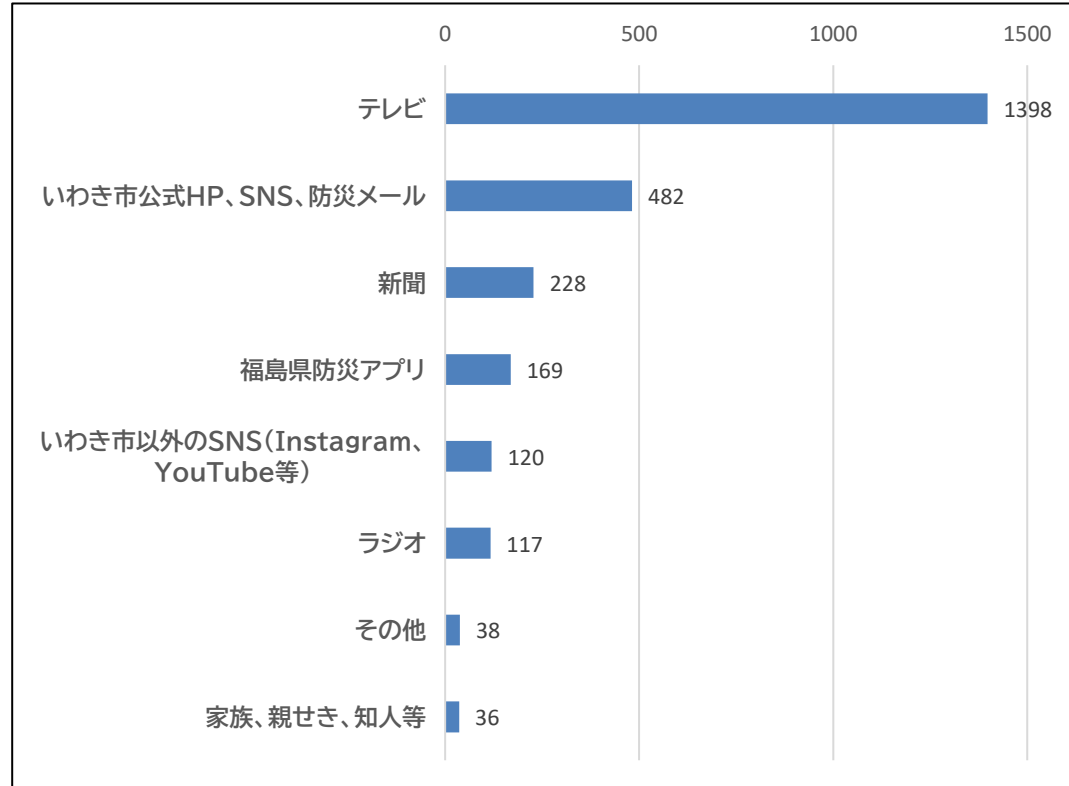
年代別ではさほど変化なし。
津波浸水区域内又は沿岸部を要する地区住民ほど事前から後発注意情報を知っていた。
災害リスクの高い地区に住む住民ほど防災に対する意識が高いことがうかがえる。





問7ー1 後発地震注意情報をどのような方法でしましたか(複数回答可)

※対象:問6で「今回知った」と回答いただいた方



(n=2,588)

【解説】

情報収集の手段として、「テレビ」からの収集が最も多い結果となった。
次いで、「**いわき市公式HP、SNS、防災メール**」が多く、「**福島県防災アプリ**」を含めたデジタル技術での情報発信が有効であることが伺える。

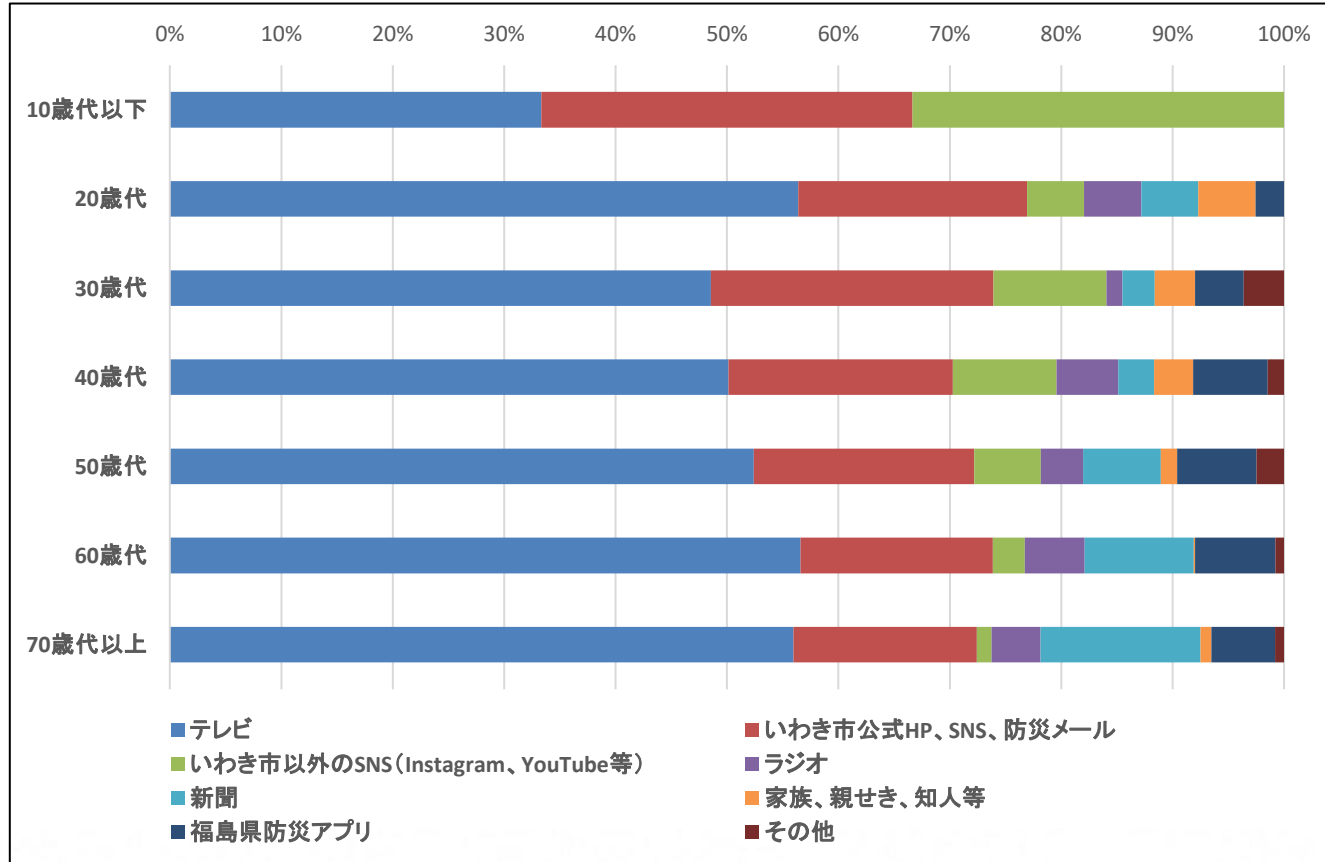




問7ー2 【年代別集計】

後発地震注意情報をどのような方法でしりましたか(複数回答可)

※対象:問6で「今回知った」と回答いただいた方



その他の意見

- ・回覧板
- ・ネットニュース
- ・気象情報アプリ(スマートフォン等)
- ・防災行政無線

(n=2,588)





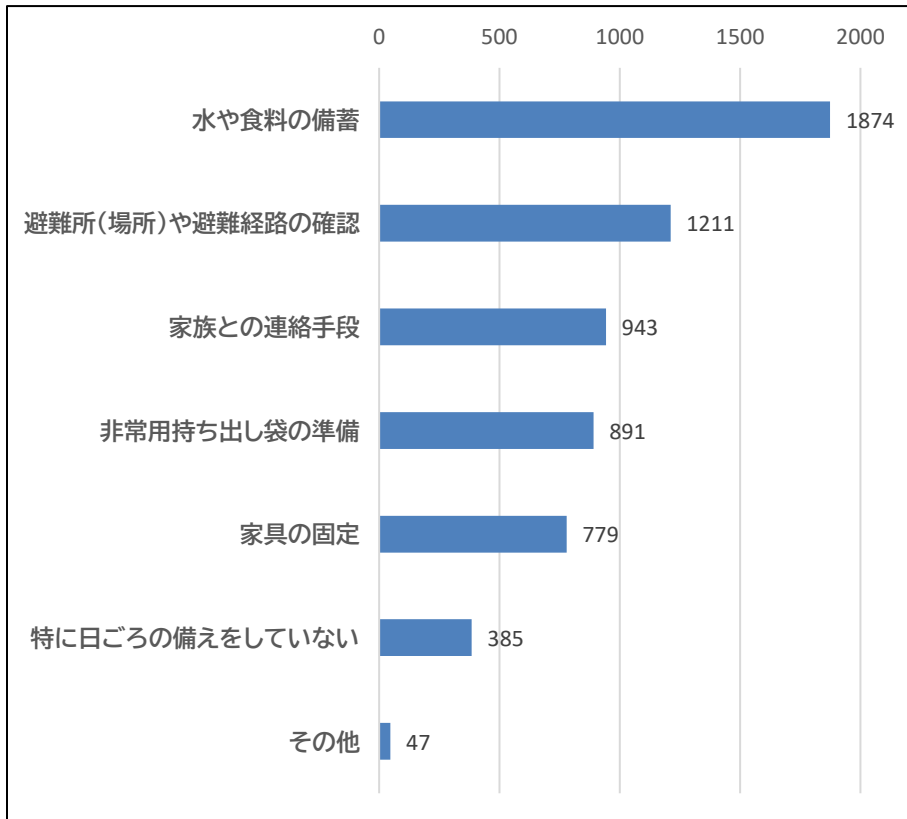
災害への日頃の備えについて

(問8～問11)





問8ー1 災害への日頃からの備えについてお知らせください(複数回答可)



(n=6,130)

【解説】

災害への日頃からの備えとして最も多かったのは「水や食料の備蓄」であった。次いで、「避難所(場所)や避難経路の確認」、「家族との連絡手段」について備えていた。

また、「家具の固定」の回答数が少ないことから、地震があった際は背の高い家具は倒れるものと想定して対策を講じてもらう必要がある。

一方で、「特に日ごろの備えをしていない」との回答が一定数あったことから、災害を「じぶんごと化」することの重要性を伝えていく必要がある。

その他の意見

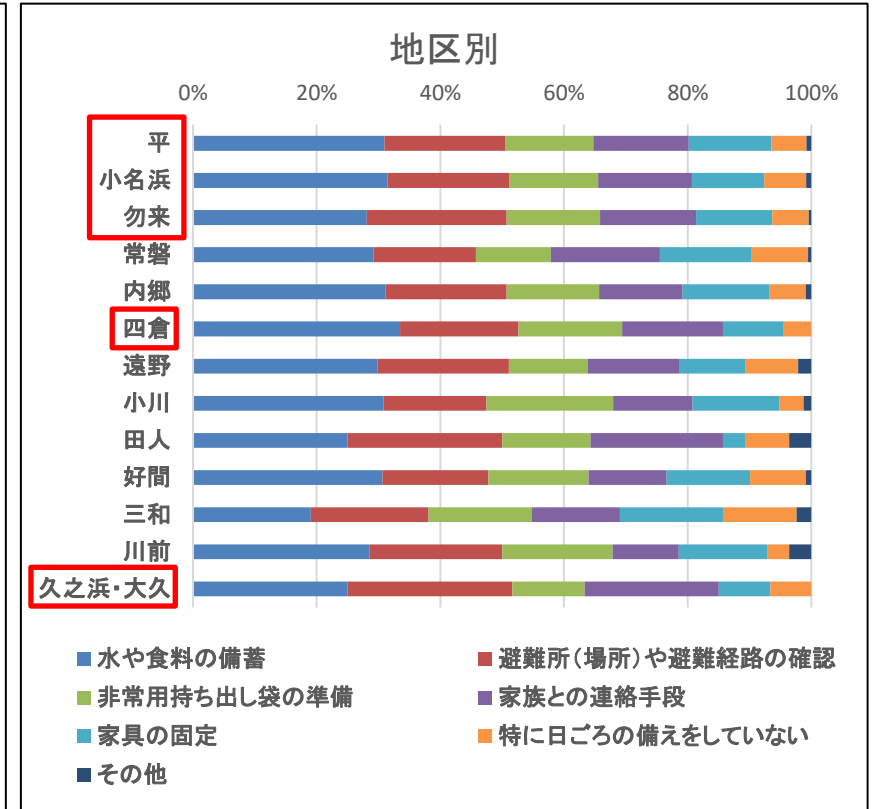
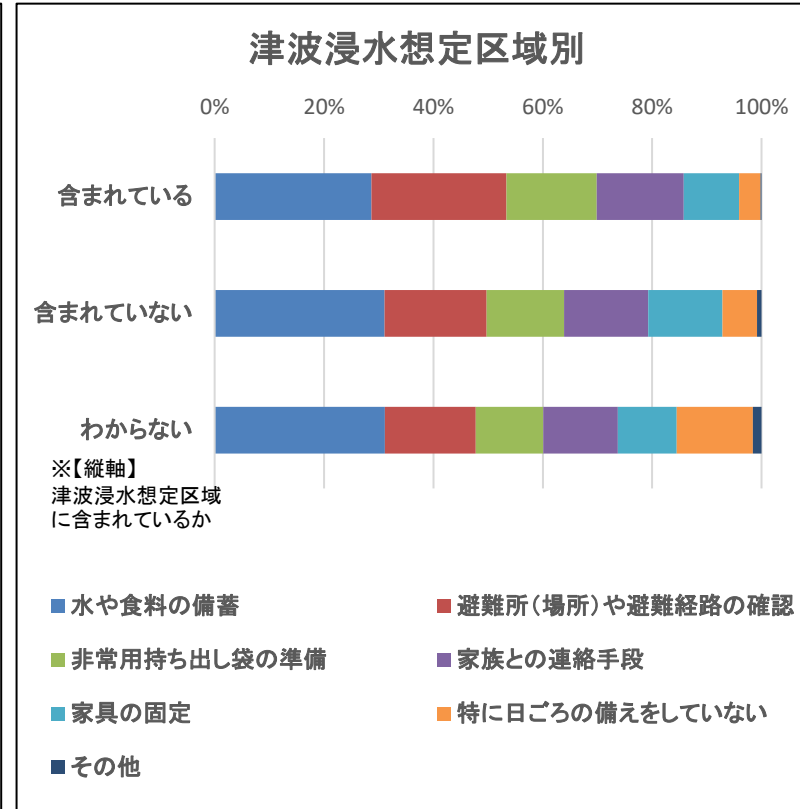
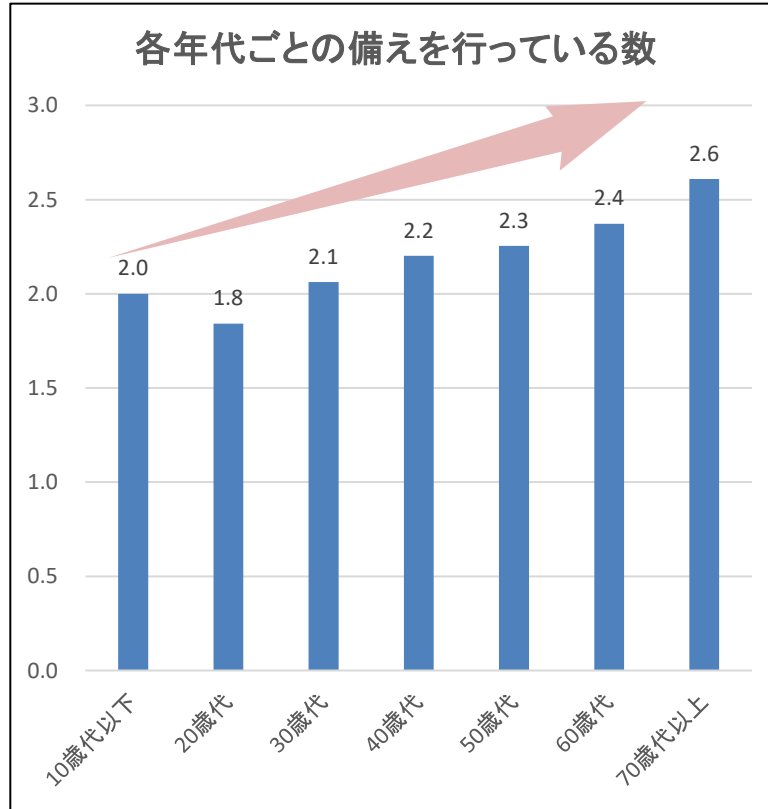
- ・蓄電池の充電
- ・自家用車燃料を常に満タンにしておく
- ・非常用トイレの備え
- ・灯油を余分に備蓄
- ・ペットの餌等の備蓄
- ・車内に寝袋等を保管
- ・最新のハザードマップ等の情報を入手
- ・浴槽に常に水を張っておく
- ・ジャッキやヘルメットを保管





問8ー2 【クロス集計】

災害への日頃からの備えについてお知らせください(複数回答可) (n=6,130)



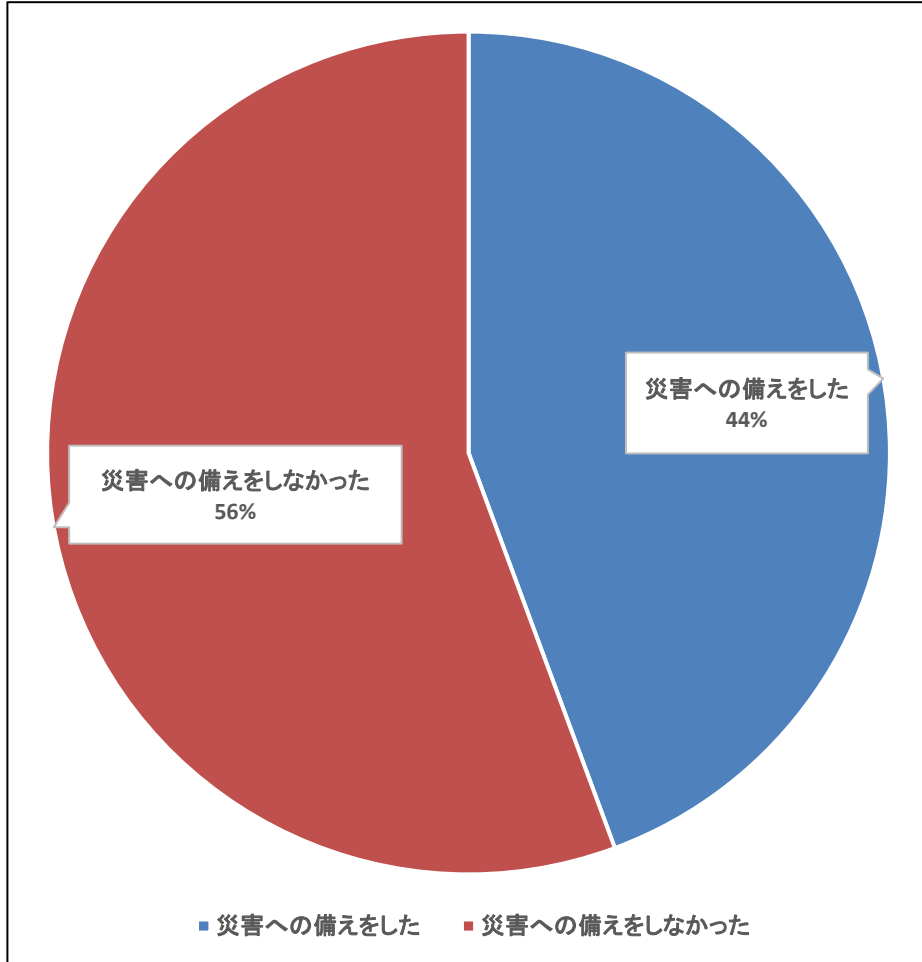
【解説】

年齢が高くなるにつれて日ごろからの備えを行っている。
災害リスクが低い又は災害リスクを把握していない人ほど、日ごろの備えをしていない。





問9ー1 後発地震注意情報を知って災害への備えを行いましたか



(n=2,604)

【解説】

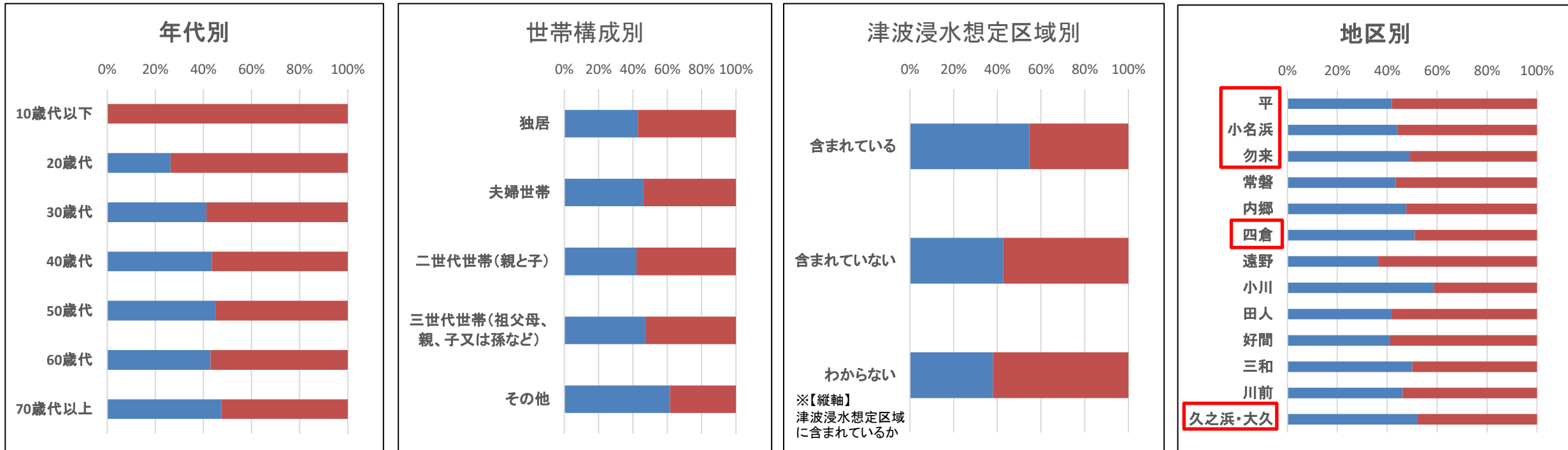
56%の人が後発地震注意情報を知った後でも災害の備えを実施していなかったことから、備え(再確認を含む。)の重要性を周知していくことが必要である。





問9ー2 【クロス集計】

後発地震注意情報を知って災害への備えを行いましたか (n=2,604)



■ 災害への備えをした ■ 災害への備えをしなかった

【解説】

年齢が高くなるにつれて、災害への備えを行っている。

災害リスクが低い又は災害リスクを把握していない人ほど、災害への備えを行っていない。

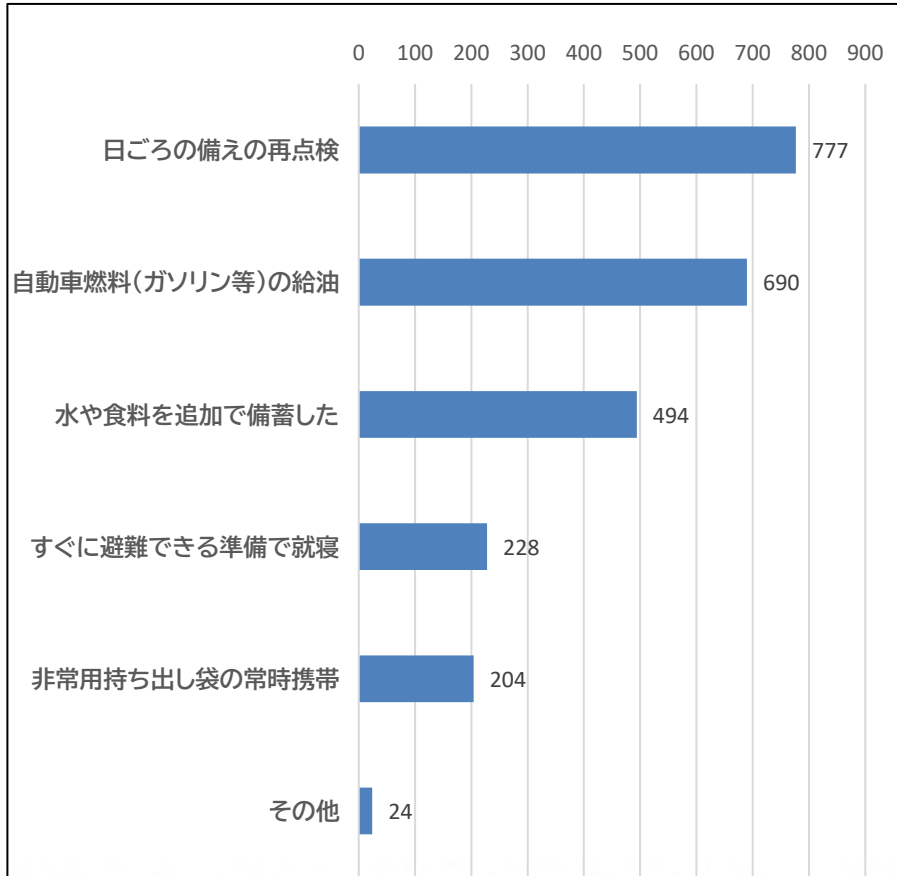
※ 日ごろからの備えと同様な傾向





問10ー1 後発地震注意情報が発表された後の備えについてお知らせください (複数回答可)

※対象:問9で「災害への備えをした」と回答いただいた方



【解説】

「日ごろの備えの再点検」が最も多く、「自動車燃料(ガソリン等)の給油」、「水や食料を追加で備蓄した」が多かった。

災害発生時の自動車燃料の不足、食料の買い占め等を予想し、備えたものと推測される。

その他の意見

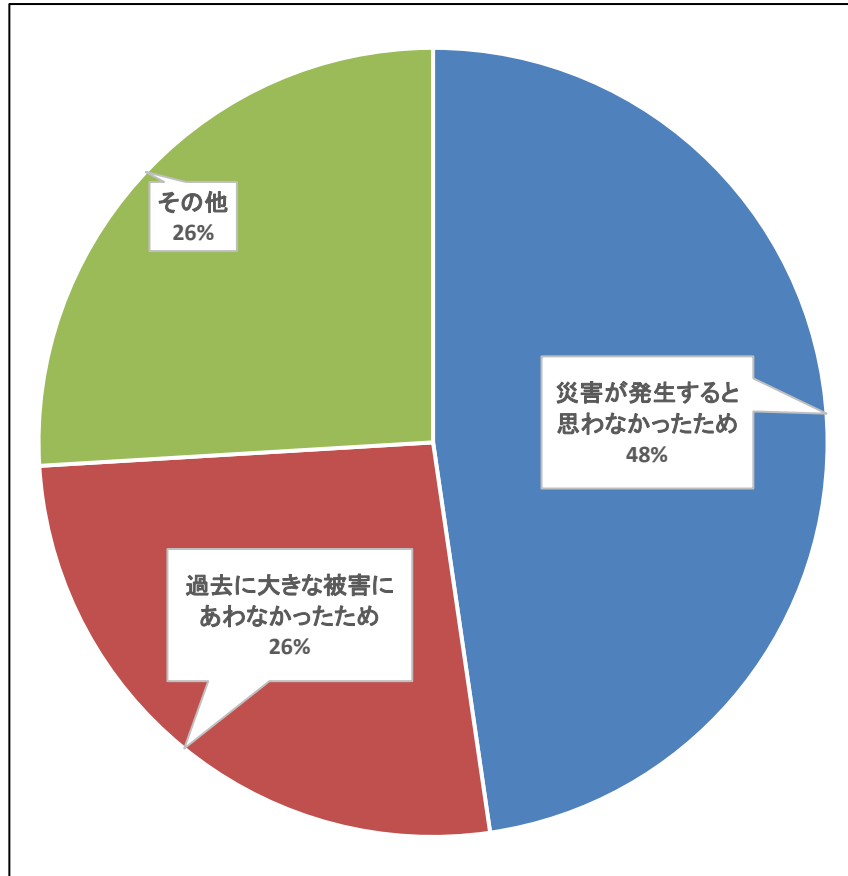
- ・浴槽に常に水を張っておく
- ・家族で災害時の集合場所、避難のタイミングの再確認
- ・非常用トイレの備え
- ・沿岸部への外出を控えた
- ・家具の固定
- ・離れて暮らす家族に対する備蓄品の準備
- ・防災リュックを枕元に置いて1週間過ごした
- ・地震があった際、高所から落ちそうな物を移動した
- ・ペットの餌等の備蓄

(n=2,417)





問11ー1 特に備えをしなかった理由をお知らせください ※対象:問9で「災害への備えをしなかった」と回答いただいた方



(n=1,449)

【解説】

災害への備えをしなかったと回答した人のうち、**48%**が「**災害が発生すると思わなかったため**」、**26%**の人が「**過去に大きな被害にあわなかったため**」と回答している。

日ごろから、「自分は大丈夫だろう」という正常性バイアスが働いていることが伺える。

災害を「じぶんごと化」していただくよう、啓発していく必要がある。

※バイアス…先入観

その他の意見

- ・普段から備えを行っているため、改めての備えを行わなかった。
- ・後発地震の規模があまり大きくないだろうと思ったため。
- ・忙しくてできない。
- ・やろうと思っていながら後回しにしてしまった。
- ・経済的な理由
- ・東日本大震災で、なんとかあったから。
- ・何をどの程度準備して良いかわからないため。
- ・以前、断水の被害を受けたが、断水はもうどうにもならないから。ペットボトルの水を用意しても全く足りないから。



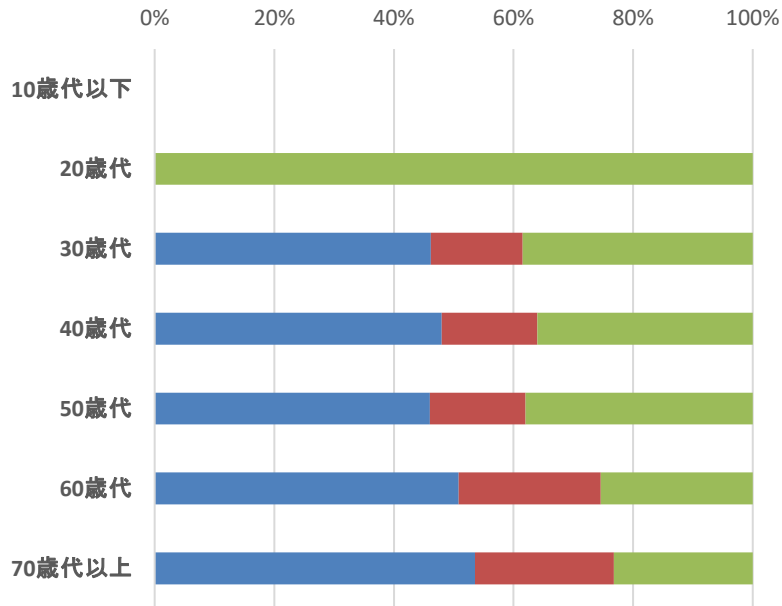


問11-2 【クロス集計】

特に備えをしなかった理由をお知らせください

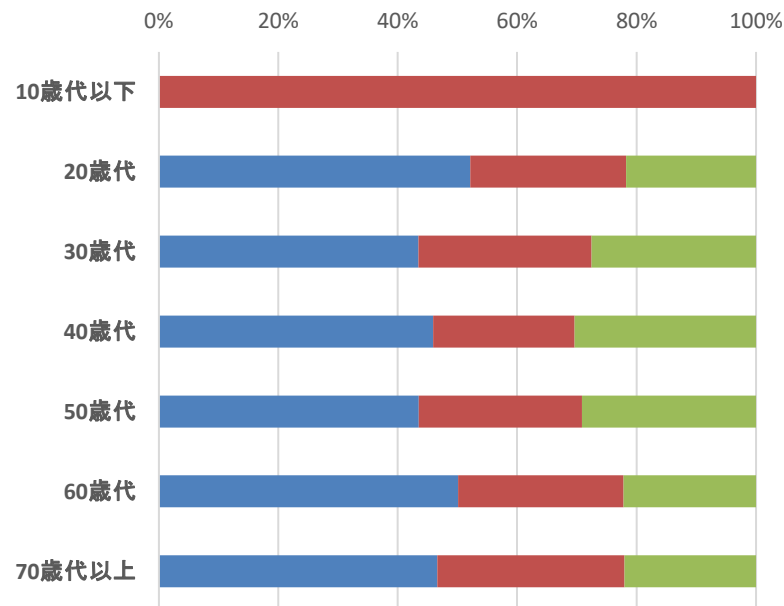
※対象:問9で「災害への備えをしなかった」と回答いただいた方

津波浸水想定区域内



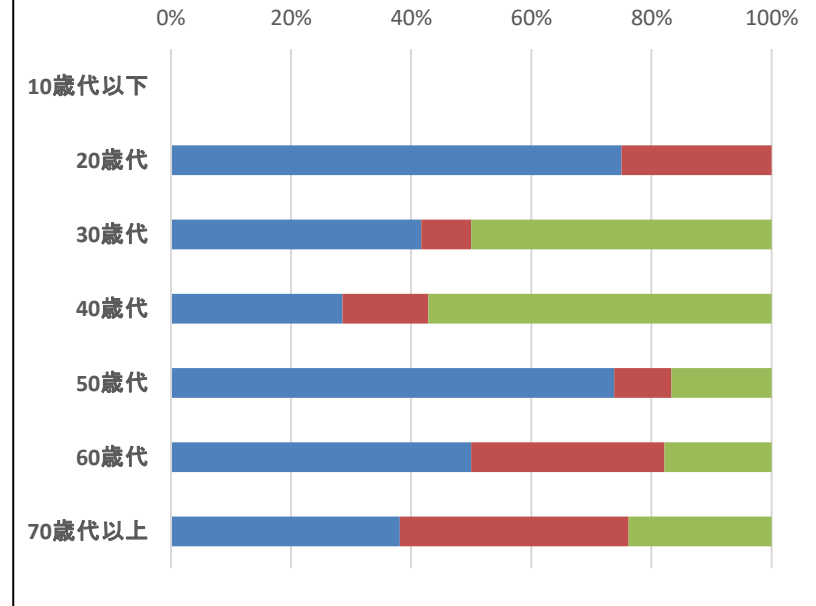
(n=204)

津波浸水想定区域外



(n=1,124)

津波浸水想定区域かわからない



(n=121)

- 災害が発生すると思わなかったため
- 過去に大きな被害にあわなかったため
- その他

【解説】

年代にかかわらず正常性バイアスが働いている。





後発地震注意情報に係る、市の対応等に対する意見
(問12)





問12ー1 今回の後発地震注意情報の発表を受けて、市の対応等 にご意見があればお聞かせください

情報発信に関すること(ポジティブな意見)

- ・市のLINEや防災メールでこまめに連絡がきたことにより、災害への備えについて再認識しました。市からのSNSによる情報発信は良いものだと思います。
- ・防災ラジオに案内が流れて良かったです。
- ・いわき市からの情報提供は充分できていると思います。情報の確認や、避難することなどは、個人の意識レベルの問題なので、後は自己責任だと思います。

情報発信に関すること(検討を要する意見)

- ・同じ内容のメール、LINEを何度も繰り返し送らないで欲しい。何度も送られてくると緊張感が無くなります。
また、災害時の情報伝達手段を明確にしてほしいです。携帯電話が使えないかもしれない状況で、食料や水などの情報をどのように市民に伝えるか、常日頃から繰り返し、複数の手段(テレビ、ラジオ、回覧板、広報いわき、防災メール、ホームページなど)で広く発信してほしいです。
- ・当該地震がどこまで影響があるか、もっと詳細を確認して、ピンポイントに情報、注意報を発令して欲しい。影響が無いのに繰り返し発令すると、信頼が低下する。





避難に関すること(検討を要する意見)

- ・高齢者の避難のため、地区ごとに分かりやすいマニュアルがあればと思います。
- ・高齢者でも分かる具体的な避難の方法をテレビ、ラジオ、携帯等で教えてほしい。

平時の備えに関すること(ポジティブな意見)

- ・地域住民同士による連絡体制づくりや防災について話し合いの場をつくることで、隣近所の連携や絆が強くなることを望みます。
- ・日頃からの近所付き合いがなければ、どの家に支援の手が必要かわからないため、今後も市民清掃などを通してお付き合いがあれば少しはお役に立てるのかなと思います。
- ・防災ラジオを無料で貸し出すのはいい対策だと思う。

平時の備えに関すること(検討を要する意見)

- ・もっと回覧板で防災について周知してもらえると、災害をよりじぶんごととして感じるができると思う。





避難所及び災害後の生活に関すること(検討を要する意見)

- ・暑さ、寒さなど季節によって、準備する備品は変わると思います。限られた予算で全てを用意するのは大変だと思いますが、**様々なシーンで応用できる物を増やしていただければ**と思います。その結果、避難所において、**高齢者等でも安心して避難できるよう、暑さ・寒さ対策、トイレの充実**をお願いしたいです。
- ・避難所にアレルギー対応食として、**最低限アレルギー28品目が含まれていない非常食の備蓄**をお願いしたいです。小麦、乳、卵、大豆、ナッツ系は長期保存可能ですが、アレルギーを持つ人にとっては命取りになってしまいます。
- ・**小中学校**へ平日日中に避難した場合、**避難者の受け入れは体育館のみなのか教室も含むのか**。また、車での避難者が多いことから、**校庭に駐車できるか**案内してほしい。
- ・**ペット同行避難できる避難所を指定して欲しい**。また、ペット同行避難時は、大きな駐車場を備えた避難所があると助かる。他に避難してきたペットにも配れる量のフードやシートなどを準備しているので、ペットがいる避難者同士で協力し合えると思います。
- ・避難の際に、空き家になることが非常に心配。**空き巣対策等、地区の治安維持向上は二次災害防止**になるので、検討したい。また、災害時は、水や食料の配布、**素早いライフラインの復旧**をお願い致します。





問12ー2 今回の後発地震注意情報の発表を受けて、市の対応等 にご意見があればお聞かせください【津波注意報発表に係る意見】

情報発信に関すること(ポジティブな意見)

- ・防災行政無線からうるさいくらい聞こえていたので、ちゃんと役割は果たしていたと思います。今後も気をつけて過ごしたいと思います。
- ・東日本震災で津波被害を受け大変な思いをしたので災害の情報には敏感になっています。
うるさいくらい伝えてもらって良かったです。毎年3月には非常用持ち出し袋の確認入れ替えをしていますが、今回も見直しました。

情報発信に関すること(検討を要する意見)

- ・防災行政無線から放送するのは良いのですが、一晩中等間隔で録音されたアナウンスが流されるのは精神的に辛いです。発令の仕方を考えて欲しい。
- ・職場が小名浜ですが、防災行政無線の音声聞き取りににくいです。特に、男性の声は低くて何を伝えているのか分からないことが多いです。ハウリングもしていました。サイレンの種類で、注意報なのか警報なのかが分かるようにすると、より早く避難できるかもしれません。

避難に関すること(検討を要する意見)

- ・避難する場所(高台まで)が遠く、徒歩での避難は困難です。車での避難は渋滞が不安です。道路を整備したり等、検討してほしい。





○防災行政無線関係

屋外拡声子局から放送される防災行政無線については、市民の安全確保を促すため、津波注意報発表時から等間隔で継続的に呼びかけを放送しています。時間の経過とともに、**音量や間隔を調整するなど配慮をしています**。今後、配慮の方法や音質の向上等、検討を進めていきます。

○情報発信関係

防災メールや市SNSの情報発信について、繰り返しの周知により危機感が増したとの意見がある一方、同じ内容を受信し続けることで緊張感がなくなるとの意見がありました。今後、**継続して周知を図る場合は、内容等を適宜変更する等の対策を講じるよう検討**を進めていきます。

また、SNS等の発信だけではなく、回覧板等を活用し、**より幅広い世代に情報を伝えていけるよう検討**を進めます。
あわせて、防災ラジオでの情報収集が有効であるとの声もあったことから、今後も継続した貸与促進を図っていきます。

○避難関係

徒歩避難の困難性や高齢者の避難の支援方法についての声があったことから、各地区の**自主防災組織を中心とした地区防災計画・地区防災マップの作成**や、**避難行動要支援者に対する個別避難計画の作成推進**により、**共助力の強化**をより一層図っていきます。

○避難所及び災害後の生活関係

避難所の暑さ・寒さ対策をはじめとした環境改善について、避難した際の特別教室の利用や、冷暖房の設置等を**関係部署と連携を図り対応**を進めていきます。(ペット同行避難、アレルギー対応食の準備等含む。)



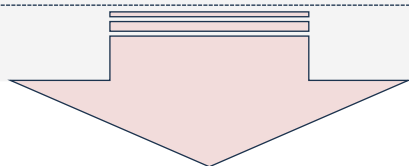
現 状

防災教育や総合防災訓練により
地域防災力は**向上**している

自主防災会活動率UP
R4 57% ⇒ R7 **77%** 加チャツ半島
付近の地震 ⇒ **市民の
迅速避難**

ただし、今回のアンケートで

**災害への備えが不十分、また、正しい行動が
とれない人が一定数いたことが判明**



誰一人取り残さないために

既存事業の**強化**

防災教育

総合防災訓練

情報発信

目 標

「逃げ遅れ**ゼロ**」・「災害死**ゼロ**」
(国際防災都市)

災害対応の
じぶんごと化